令和6年度　外国人の受入れと社会統合のための国際フォーラム
「共生社会実現に向けた自治体間の国内外連携」

多文化共生都市・浜松の実現に向けた都市間連携

2025年2月13日

浜松市企画調整部国際課

HAMAMATSU CITY

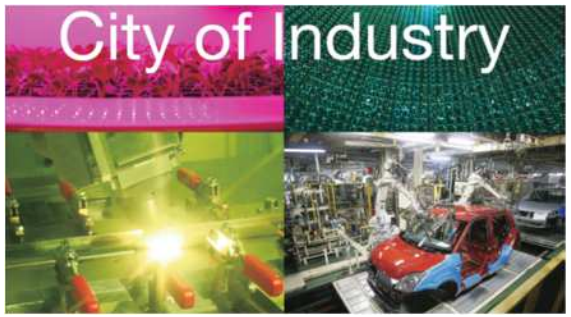
目　次

1 浜松市の紹介
2 外国人市民の状況
3 浜松市の多文化共生施策
4 多文化共生都市との連携
5 都市間連携のメリット・可能性、課題

HAMAMATSU CITY

1 浜松市の紹介

人口：786,792人　（2024年4月1日時点）
※うち外国人市民 29,028人、総人口の3.7%
面積：1,558.11Km²（全国第2位）

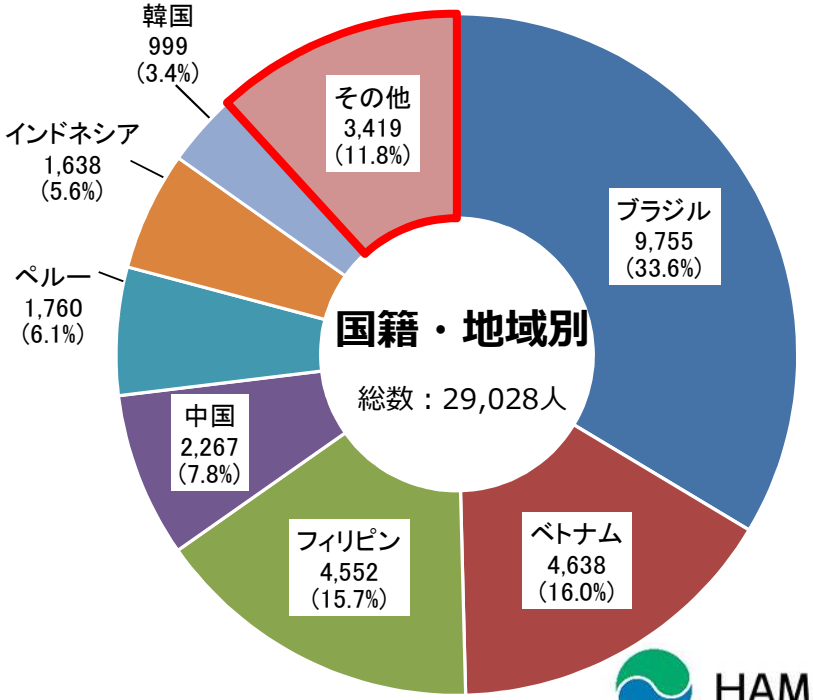


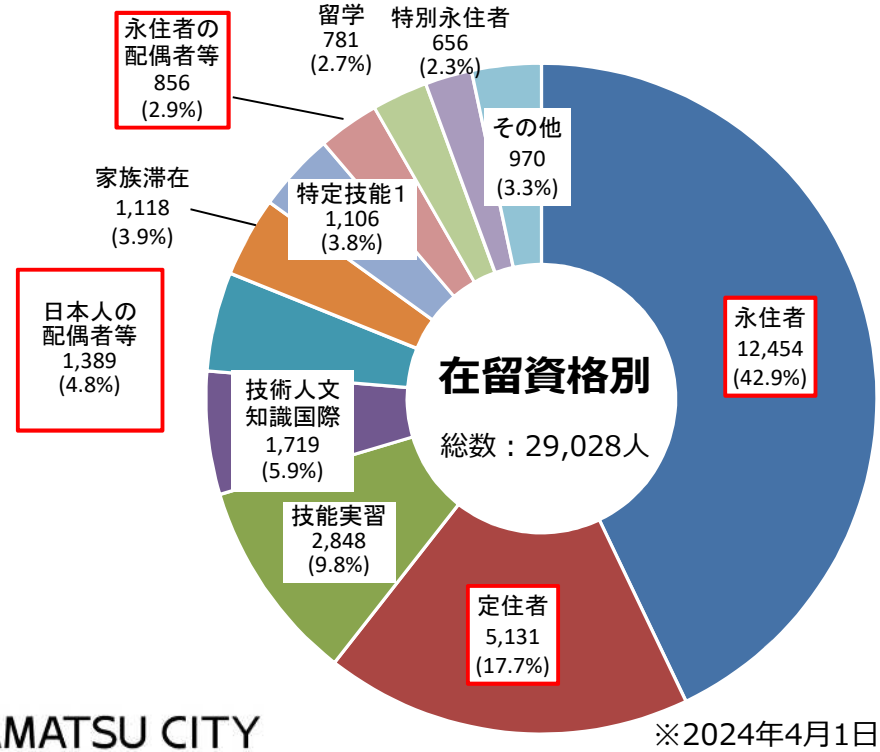
SUZUKI　YAMAHA　HAMAMATSU
HONDA　ENKEI　F.C.C. CLUTCH TECHNOLOGY
YAMAHA　KAWAI　Roland

HAMAMATSU CITY

2 外国人市民の状況

- ブラジルなど南米系出身者が約4割を占めるが、近年はアジア系など多国籍化が進む
- 永住者や定住者など長期滞在が可能な身分系在留資格の割合が約7割を占め、定住化が進展
- 輸送用機器等の製造業に従事する割合が高く、近年は技能実習や特定技能が増加傾向
- 少数国ではインド、ネパール、スリランカ等の「技術・人文知識・国際業務」「企業内転勤」「家族滞在」等の増加率がこのところ顕著



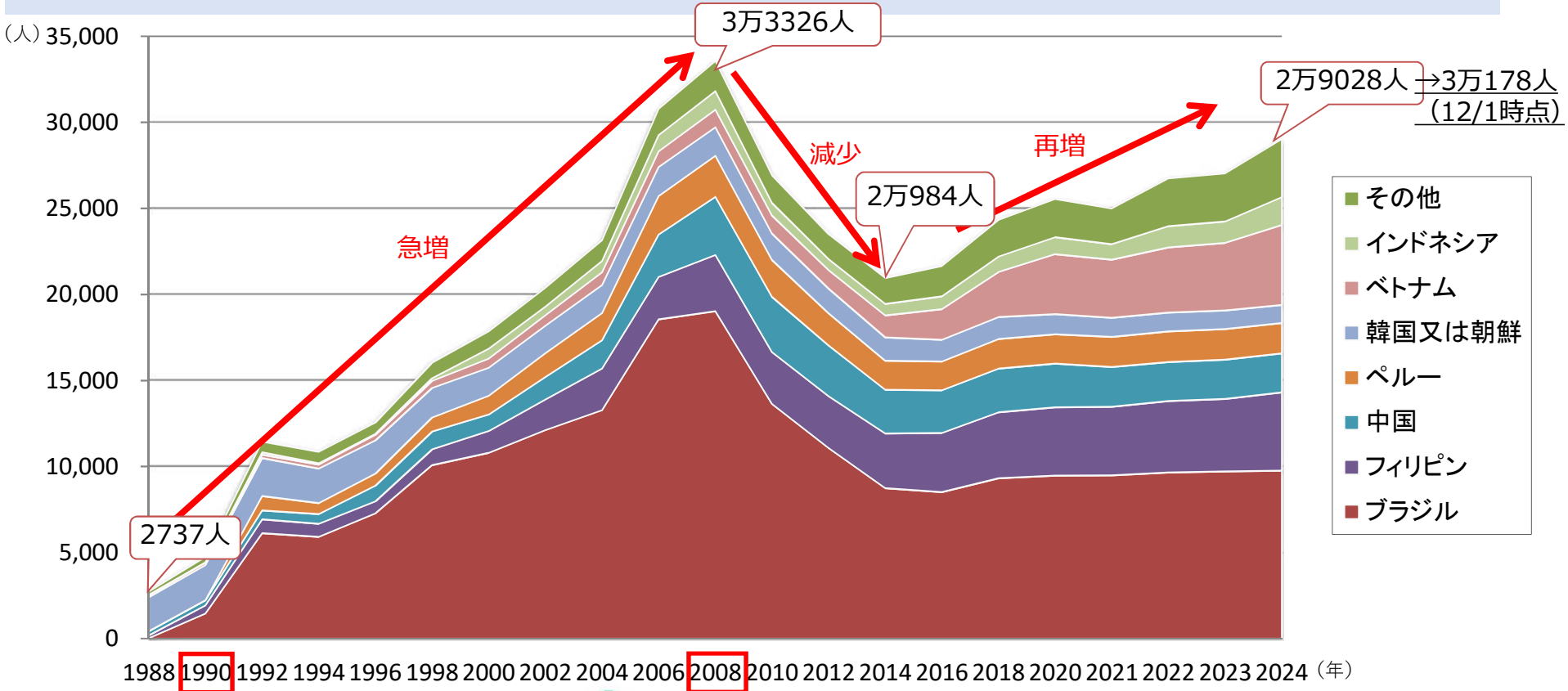


HAMAMATSU CITY

※2024年4月1日現在

2 外国人市民の状況

- 1990年の改正入管法施行を機にブラジルやペルーなどの南米日系人を中心に急増
- 近年はベトナム人の増加が顕著、フィリピン、インドネシアも増加傾向



※各年4月1日現在

3 浜松市の多文化共生施策　-ビジョン-

浜松市多文化共生都市ビジョン

※現在第3次計画期間
(2023年～2028年)

目指す都市の将来像

相互の理解と尊重のもと、創造と成長を続ける、ともに築く多文化共生都市

目指す方向性

1　異なる文化を持つ市民がともに構築する地域【協働】
2　多様性を都市の活力と捉え、発展していく地域【創造】
3　誰もが安全・安心な暮らしを実感できる地域【安心】

重点取組

- ◆ 外国人材の活躍促進
- ◆ 総合的・体系的な日本語教育の推進
- ◆ 日常生活やライフステージの応じた支援体制の構築
- ◆ 危機管理体制の強化
- ◆ デジタルツールの活用推進・DXの推進

HAMAMATSU CITY

3 浜松市の多文化共生施策　-都市間連携の考え方-

施策体系の柱：創造

推進施策（４）他都市や関係機関との連携促進

多文化共生社会の実現に向けて、国内外の都市や関係機関との知見の共有や連携促進を図る

■国内の都市や関係機関との連携促進

- 外国人集住都市会議に参画し、国・県及び関係機関への提言をはじめ参加都市と連携した取組を進める
- 自治体国際化協会、国際交流基金、国際協力機構などの関係機関等との連携を一層深めるとともに、国内都市間の連携促進を図る

■インターカルチュラル・シティとの連携を通じた知見やノウハウの共有

- 世界最大規模の多文化共生都市の国際ネットワーク「インターカルチュラル・シティ・ネットワーク」の一員として、多文化共生に関する新たな動きを注視しながら、世界のインターカルチュラル・シティとの連携を進める
- 連携を通じて得られた知見や成果などについては国内外に向け広く発信する

HAMAMATSU CITY

4 多文化共生都市との連携 –日本国内-

外国人集住都市会議

設立の背景

- 1990年の改正入管法施行以降、外国人住民の定住化が進む中で社会保障や教育、労働や外国人登録などの課題が顕在化
- これまでの国レベルでの受入れ態勢（法律や制度）では実態に追いつかず、地方自治体単独での取組には限界がある

国による法制度の整備、本国の制度整備・支援及び関係機関との連携が必要

2001年、本市の提唱により

外国人集住都市会議の設立

「定住化が進む外国人住民は、同じ地域で共に生活し、地域経済を支える大きな力となっているとともに、多様な文化やスポーツ等の共存がもたらす新しい地域づくりの重要なパートナーであるとの認識に立ち、すべての住民の総意と協力のもとに、安全で快適な地域社会を築く多文化共生に向けて、新たなルールやシステムの確立を目指していく。」

（『地域共生』についての「浜松宣言」 2001年、外国人集住都市会議）

HAMAMATSU CITY

4 多文化共生都市との連携 –日本国内-

外国人集住都市会議

活動内容 多文化共生の知見やノウハウの共有、国に対する継続的な政策提言　等

取組の成果 外国人の住民基本台帳制度の施行、外国人児童生徒対応教員の加配措置、
定住外国人の子供の就学促進事業、
外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策　等

外国人集住都市会議こまき2023

HAMAMATSU CITY

4 多文化共生都市との連携 –海外都市（ICC）-

- 2012年1月、東京都で開催された「多文化共生都市国際シンポジウム」参加
  ➡**世界の多文化共生都市との本格的な連携を開始**
- 2012年10月、浜松市において「日韓欧多文化共生都市サミット2012浜松」開催
- 2013年10月、韓国・安山市で開催された「日韓欧多文化共生都市シンポジウム」参加

多文化共生都市国際シンポジウム

日韓欧多文化共生都市サミット

日韓欧多文化共生都市シンポジウム

HAMAMATSU CITY

4 多文化共生都市との連携 –海外都市（ICC）-

- 2016年11月、「世界民主主義フォーラム2016」に参加
  ➡多文化共生施策に対する高い評価を受け、ICCネットワークへの強い加盟要請を受ける
- 2017年10月、「インターカルチュラル・シティと多様性を生かしたまちづくり2017浜松」を開催し、ICCネットワークへの加盟を宣言
- 2019年10月、「都市間連携国際サミット2019浜松」開催
- 2021年3月、日本の欧州評議会オブザーバー加盟25周年記念事業オンライン参加
- 2024年10月、「インターカルチュラル・シティシンポジウム2024浜松」開催

ICC
アジア
初加盟

浜松市 HAMAMATSU CITY × INTERCULTURAL CITIES COUNCIL OF EUROPE

ICC加盟シンポジウム2017

都市間連携国際サミット2019

ICCシンポジウム2024

HAMAMATSU CITY

5 都市間連携のメリット・可能性、課題

主なメリット・可能性

うまく機能すれば可能性は想像以上に拡大

- 多文化共生都市としてのブランディング
- 共通課題への共同での取組推進、グッドプラクティスの共有
- 施策及び評価の可視化　e.g.）ICCインデックス指数、都市政策専門家助言
- 国内及び国際社会に対するメッセージ訴求力　e.g.）政策提言や共同宣言
- 行政職員をはじめ、地域関係者の能動的思考

主な課題

- 自治体規模の相違に起因する対応や考え方のズレ
- ネットワークの維持・運営に対する労力負担　e.g.）事務局都市の負担
- 目的とするゴール（着地点）を定めるか否か　e.g.）恒常的or臨時的
- 外部から活動内容や成果が見え難い面がある